虫刺され

皮膚科主任医長
渡辺　剛一

　虫に刺されると皮膚が赤くはれ，かゆくなります。本人が虫にさされたことに気付く場合（蜂、ぶよ、ムカデ）もありますが、大多数の場合は本人がすぐは気付きません。蚊は刺している最中は麻酔薬を注射しますし、毛虫、毒蛾は毛や鱗粉が降ってくるので虫は皮膚にはいません。

　医師は皮膚に虫の刺し口をみつけ、周囲の状況を考えて虫刺されと診断治療は患部を冷やしステロイド軟膏をぬり､抗ヒスタミン剤やステロイドを内服します。21 世紀の状況は以前と比較すると（1）地球温暖化に伴い今まで熱帯地方に生息していた虫が温帯地方（日本）にも生息域を拡大している。(2) 国際化に伴い、人動物がジェット機で 2 日以内に世界中に移動するため、それに伴い、虫、虫が媒介する感染症も 2 日以内に世界中に感染します。いままでいなかった、虫や感染症が拡大しています。これからは虫に刺されたと軽く思わないで、感染症も注意しなくてはいけません。

蚊

蚊にさされると刺し口を中心に赤くはれます。注意すべきは蚊が媒介する感染症で日本脳炎（ｱｶｲｴｶ）、マラリア（ﾊﾏﾀﾞﾗｶ）、フィラリア、西ナイル熱があります。国際化により急速な拡大が懸念されます。特にマラリアを媒介する蚊は南西諸島の国境を越えた可能性が指摘されています。

蜂

アレルギィのある人は 1 時間以内にショックを起こします。治療はすぐにﾉﾙｱﾄﾞﾚﾅﾘﾝを注射します。
検査で蜂の特異的 LgE 抗体が陽性です。林業や果樹農家は注意が必要です。自家注射が売っています。

ブヨ

春～秋渓流沿いで刺されます。さされるとすぐ痛くなります。アウトドアを楽しむときは注意してください。
毛虫、毒蛾：鱗粉や毒針が空中から刺さり　紅色丘疹が多発します。虫は見えないし刺された覚えもありません。木の下や草刈のとき刺されます。あと洗濯物に鱗粉がついてさされることもあります。

疥癬（かいせん）

人につくダニで指間、肘窩、腋窩、鼠径部に丘疹ができ非常にかゆいです。顕微鏡で卵か成虫が見えます。問題はダニに感染してからかゆくなるまで 1 ヶ月かかります。この間は症状がないので直接、衣類、ｼｰﾂを介して伝染し集団発生します。以前は外用剤のみでしたが今度内服薬（イベルメクチン）が処方できます。動物疥癬は人を刺しても人皮膚には卵を産みません。

蚤

下肢に水疱ができます。蚤の飛翔力がひざ下なのでひざ下に出来やすいです。

しらみ

毛につきます。スミスリンパウダーやスミスリンｼｬﾝﾌﾟｰを使用します。

とこじらみ（南京虫）

刺し口が 2 個あり非常にかゆいです。部屋の隙間にいて夜間刺します。
以前は小説の中でしかいませんでしたが、いま国際化のため旅行者を通じて広がっています。

むかで

赤城の神で、日光の神がへびで、戦場河原で戦いました。負けて逃げてきて老神温泉でけがをいやしました。